

With

第7号(令和4年度 NO.3) 令和5年1月20日(金)発行

大雪に見舞われながらも、先月無事に2学期を終了することができました。2学期は新型コロナウイルス感染症の猛威に見舞われながらも、様々な活動に取り組むことができました。児童生徒の頑張り一つ一つは、保護者の皆様や地域の皆様の御支援があつてこそと、感謝しております。ありがとうございました。こういった2学期の活動を振り返りながら、12月20日第3回学校運営協議会が行われました。当日は、お足元の悪い中でしたが、参加して下さった皆様、ありがとうございました。今回のCS通信では第3回学校運営協議会の内容についてお知らせいたします。

第3回学校運営協議会～R4,12,20 北斗市文化センターかなでーる

去る12月20日(火)、17時より開催しました。内容は、「学習発表会」「With プロジェクト」「地域参観日」「トラピスト通り並木道ライトアップ見学」の4つの活動報告と熟議でした。

活動報告

「学習発表会」の活動報告では、コロナ禍における実施の方法や、具体的な発表内容について説明を行いました。



学校と地域の協働活動「With プロジェクト」：小学部のゲストティーチャーを招いた学習の様子、中学部の花壇整備と清掃活動の様子について説明がありました。小学部は、井出おしま学園園長をゲストに招き、凧作りや凧揚げ、缶ぽっくり、けん玉、竹馬などを用いた「昔遊び」を行いました。井出おしま学園園長の技に驚きながら、自分の作った凧が高く揚がる様子に興味津々な子どもたちの様子が見られました。中学部では、石別住民センターの清掃活動や花壇整備の活動を行いました。石岡会長や管理人の方から励ましのお言葉とねぎらいの飲み物をいただき、生徒も達成感に溢れる一日となりました。



「地域参観日」：おしま学園分校の児童生徒の様子や学校の様子を広く知っていただくことを目的として実施しました。学生を含め7名の参加者の皆様から頂いた実施後のアンケートの結果とともに見学の様子について説明させていただきました。参加者の皆様からは、「継続して実施してほしい、降雪期以外の実施が良い、高等部の製品販売も実施してほしい」といった声が上がっており、次年度に生かして参ります。



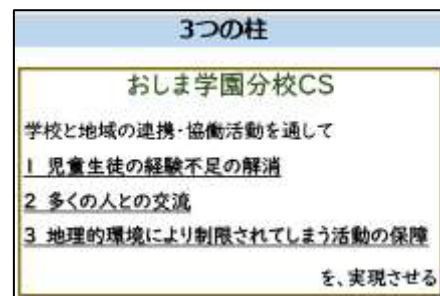
「トラピスト通り並木道ライトアップ見学」：第1回学校運営協議会でおしま学園分校の現状としてお話したことがきっかけで、石岡町内会長や北斗市観光課の皆様を始めとした多くの皆様の御尽力で実現しました。当日の朝からワクワクしている児童生徒の姿があり、移動してからは自分が作ったキャンドルに火が灯されていく様子を見つめ、幻想的な景色の中の冬道散歩を楽しむ体験貴重な経験となりました。また、翌日の登校時にも満面の笑顔で「昨日、楽しかったね」という声も聞かれました。御尽力いただいた皆様、本当にありがとうございました。



おしま学園分校が CS をスタートさせるにあたり、令和3年度に取り組んできた教職員、保護者、地域の方々との研修会や座談会において導かれたおしま学園分校のCSの3つの柱があります。「With プロジェクト」や「トラピスト通り並木道ライトアップ見学」は、この柱に沿って実施していることについても説明を行いました。

熟議

今回の熟議のテーマは、「おしま学園分校が目指す CS とは」でした。次年度の学校経営方針の策定に向け、おしま学園分校の CS の3つの柱をふまえながら、次年度の CS について熟議を行いました。内容は、以下のとおりです。



- ・「トラピスト通り並木道ライトアップ」では、キャンドルが灯される様子を見学できたことも特別であったが、大きなバスに乗車したことも子どもたちには喜びであった。
- ・学校のニーズが具現化されたが、おしま学園分校の CS の3つの柱の全てに合致しているだろう。地域の方と価値観を共有する良い事例として、他の活動も掘り起こされると良い。次年度も継続していきたい。
- ・ゲストティーチャーの派遣について、学校側は悩むことが多いが、北斗市の「まちの匠」という講師バンクや「ほくほく講座」の事業がある。北斗市立の学校だけの利用というしぼりはない。



- ・北海道教育大学には、ボランティアの要請が数多く来ているが、学生に学びがあるものに参加している。町づくりの取組には関心を寄せている。町づくりについては、北斗市の事業にも学生が参加しているが、課題が明確であることや、学校の教育課程などのような制限がないことから取り組みやすい状況がある。
- ・“人”だけではなく、“施設”を利用することもできるのではないかと。例えば、大学の学食等との利用などが考えられる。
- ・CS は様々な立場の方が参加している。学校課題を解決するために、具体的にどうすればよいのかを建設的に協議していかなければならない。
- ・石別地区は観光の重点地域である。このことからめながら、ライトアップの見学のような取組を増やしていけると良い。
- ・製品販売等の場を拡げたいという思いはあるが、実際どのように進めていくと良いのかわからず、躊躇してしまうことがある。市役所などに問い合わせながら、学校側も積極的に働きかけていく必要がある。
- ・ゆうあい会においても、パン作り体験やアートワークショップなどの体験ができるので、問い合わせしてほしい。
- ・地域との交流は、その場限りでは意味がない。日常的な交流が必要である。日本は分離教育だと指摘されている。特におしま学園分校の児童生徒は、地元から離れて生活をしているケースもある。就学の問題も含め、地域で育てることができなければ、ますます障がいのある方に冷たい世界になっていってしまうのではないかと。
- ・トラピストの見学は、ぜひ来年度も実施してほしい。
- ・石別ふれあい運動会の参加は、分校の児童生徒の実態を踏まえた無理のない形で参加できるように、小学校や中学校と考えていきたい。

このような協議を踏まえ、次年度以降についても、この3つの柱を軸にすること、今回の熟議の内容を踏まえて次年度の学校経営方針を次回の学校運営協議会で提案することが確認されました。

次回、第3回学校運営協議会は、2月21日(火)に北斗市総合文化センターかなでーるにて開催を予定しております。学校運営協議会や学校と地域との協働活動につきまして何かございましたらお気軽に御連絡ください。

(七飯養護学校おしま学園分校 0138-75-2717)

